



身近な地域・元気づくりモデル事業

モデル地区活動事例集



平成23年 3 月

横浜市市民局地域活動推進課



はじめに

横浜市の様々な地域で、もっと住みよい地域にしていこうと、様々な活動が行われています。

地域のために活動している人どうしで、顔の見える関係ができると、お互いが抱えている課題が共有できたり、活動についての新しいアイデアが生まれたり、一緒に活動することによって担い手が増えるなど、地域の持つ力が、一層発揮されることが期待できます。

そこで、横浜市では、平成19年度から22年度まで「身近な地域・元気づくりモデル事業」を実施し、希望する地域をモデル地区に指定して、地域の課題解決や魅力向上の取組を積極的に支援してきました。

モデル地区では、自治会町内会を始め、地域のいろいろな団体や人々が集まって話し合いを行い、課題を解決して自分たちが望む地域にしていこうと様々な取組が行われています。

この冊子では、モデル地区となった41地区の活動を紹介しています。地域活動を進めるためのヒントが見つければ幸いです。



目次

テーマ・地域	頁
1 まちに福を呼び込もう 鶴見区 寺尾・寺尾第二地区	1
2 みんなが優しくなれるまち 矢向 鶴見区 矢向地区	2
3 支えあう・助け合う町 江ヶ崎 鶴見区 江ヶ崎町地区	3
4 地域と事業所の連携による地域防災力の向上にむけて 神奈川区 新子安・子安通1丁目・入江地区	4
5 羽沢駅周辺地区のまちづくり 神奈川区 羽沢・三枚地区	5
6 未来の夢をはぐくみ 災害に強いまちづくりをめざして 西区 東久保町地区	6
7 歴史・文化・自然の魅力あふれる4南をもっと元気に 中区 第4地区南部地区	7
8 アートによる安全・安心のまちづくりをめざして 中区 初黄・日ノ出町地区	8
9 地域の力は、お互いの命を守る 南区 六ツ川地区連合自治会地区	9
10 小さな輪を、大きな輪へ！ つながりの輪を広げよう 南区 中村地区連合町内会地区	10
11 ひざりを気持ちのいい街に 港南区 ひざり地区	11
12 ころろつなぐ日野南 港南区 日野南地区	12
13 地域の支えあい、活動の担い手づくりをめざして 港南区 野庭団地地区	13
14 次世代の人々のふるさとに 港南区 日野第一地区	14
15 つなごう地域の絆 保土ヶ谷区 上新地区	15
16 誰もが住み続けたいふる里づくりをめざして 旭区 旭北地区	16

テーマ・地域	頁
17 学びと文化のまちづくり 旭区 若葉台地区	17
18 あいさつと笑顔あふれる街づくり 磯子区 滝頭地区及びその周辺地区	18
19 一つひとつの活動が光り、大きな活力に発展するまち 港北区 日吉地区	19
20 大倉山を魅力あるまちへ 港北区 太尾地区	20
21 好きです。いけべ 都筑区 池辺地区	21
22 めくばり・きくばり・おもいやり 都筑区 かちだ地区	22
23 地域ぐるみで子どもの成長を見守る 都筑区 中川西周辺地区	23
24 課題解決と支えあい活動継承を目指して 戸塚区 ドリームハイツ及びその周辺地区	24
25 にぎわいの拠点を目指して 戸塚区 戸塚駅東口旧東海道周辺地区	25
26 全町内会参加の福祉のまちづくり 戸塚区 北汲沢地区	26
27 ゆるやかな連携、しっかりとした協働体制 栄区 湘南桂台地区	27
28 みんなが気持ち良く、そして長く住み続けられるまちづくり 栄区 公田町団地地区	28
29 誰もが安心して暮らせるまち 栄区 飯島団地地区	29
30 ご近所で助け合えるまちを目指して 泉区 中川地区	30
31 人・和のあるまち 泉区 緑園地区	31
32 ぬくもりのある町しんばし 泉区 新橋地区	32
33 向こう三軒両隣のふれあいのあるまち 泉区 和泉北部地区	33

テーマ・地域	頁
34 誰もが楽しく安心して暮らせるまち 泉区 和泉中央地区	34
35 誰もが安心・安全に暮らせる支えあえるまちづくり 泉区 下和泉地区	35
36 ご近所どうしで助け合い安全・安心・快適なまちづくり 泉区 富士見が丘地区	36
37 みんな仲間のまち上飯田 泉区 上飯田地区	37
38 安心して暮らし続けることができるまちづくりを目指して 泉区 上飯田団地地区	38
39 こんにちは・ニーハオ・シン チャオみんな笑顔で支えあうまち 泉区 いちょう団地地区	39
40 みんなで支えあいふるさと中田 泉区 中田地区	40
41 明るい笑顔のあるまち 泉区 しらゆり地区	41

モデル地区一覧



番号	指定年度	区	モデル地区名
1	21	鶴見	寺尾・寺尾第二地区
2	22		矢向地区
3	22		江ヶ崎町地区
4	20	神奈川	新子安・子安通1丁目・入江地区
5	20		羽沢・三枚地区
6	21	西	東久保町地区
7	21	中	第4地区南部地区
8	21		初黄・日ノ出町地区
9	21	南	六ツ川地区連合自治会地区
10	22		中村地区連合町内会地区
11	19	港南	ひざり地区
12	19		日野南地区
13	20		野庭団地地区
14	20		日野第一地区
15	20	保土ヶ谷	上新地区
16	20	旭	旭北地区
17	20		若葉台地区
18	20	磯子	滝頭地区及びその周辺地区
19	21	港北	日吉地区
20	21		太尾地区
21	21	都筑	池辺地区
22	21		かちだ地区
23	22		中川西周辺地区
24	19	戸塚	ドリームハイツ及びその周辺地区
25	21		戸塚駅東口旧東海道周辺地区
26	22		北汲沢地区
27	20	栄	湘南桂台地区
28	20		公田町団地地区
29	21		飯島団地地区
30	20	泉	中川地区
31	21		緑園地区
32	21		新橋地区
33	21		和泉北部地区
34	21		和泉中央地区
35	21		下和泉地区
36	20		富士見が丘地区
37	20		上飯田地区
38	20		上飯田団地地区
39	20		いちよう団地地区
40	20		中田地区
41	21	しらゆり地区	

～まちに福を呼び込もう～
鶴見区 寺尾・寺尾第二地区

モデル地区 指定日	平成21年4月1日
地域の概要	<p>(1) 区域 寺尾地区自治連合会及び寺尾第二地区連合会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 55,600 人、世帯数 約 24,400 世帯 (H22.3)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山坂が多い複雑な地形のうえに狭い道路が通っています。鶴見駅まで歩くと30分はかかるため、交通手段はバスが中心です。 ・樹林、湧水など自然が残されている地域で、寺社や史跡などの歴史資源に恵まれた住宅地です。企業社宅だったところに、住宅が建設され、若い世代が住み、古くからの住宅地の一角では、高齢化が進んでいます。
協力し合っている団体	寺尾地区・寺尾第二地区連合会、自治会町内会、寺尾地区・寺尾第二地区連合会婦人会、寺尾地区・寺尾第二地区社会福祉協議会、寺尾地区・寺尾第二地区民生委員児童委員協議会、寺尾地区・寺尾第二地区保健活動推進委員会、地域活動ホーム、特別養護老人ホーム（地域包括支援センター）、学校、商店会、バス事業者、寺尾地区センター、寺尾地域ケアプラザ、賛同する個人など
取組内容	<p>寺尾地区・寺尾第二地区連合会、自治会町内会、地区社会福祉協議会、福祉施設、学校、事業者、個人等と行政で組織された「鶴見寺尾地区福祉のまちづくり推進協議会」（以下「てらお福まち協議会」という。）が中心に活動しています。</p> <p>てらお福まち協議会では、自分たちの住むまちの資源や魅力、課題を共有するため、いつでも、誰でもが自由に参加でき、自分たちのやりたいことを自由に提案する場としての「作業部会」を毎月開催し、その提案に対して賛同した人が集まり「プロジェクトチーム」を立ち上げ、実施に向けた取組を行い、提案を実現しています。</p> <p>主なプロジェクトの取組としては、まちを好きになるための「まちあるき」や「まちをきれいに」ポスター展・クリーン大作戦、「道草プロジェクト」を実施しています。</p> <p>また、子育て世代や高齢者、障害者が外出しやすいように「子育て情報マップの作成」や「ちいさないす」の設置・改修などの活動を通じて、住民同士のつながりやまちづくりの達成感を共有し、地域のまちづくりの輪を楽しみながら広げています。</p>
	 <p>【まちあるき風景】</p>  <p>【作業部会風景】</p>

鶴見区 矢向地区

モデル地区 指定日	平成22年10月12日
地域の概要	<p>(1) 区域 矢向地区連合町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 19,500 人、世帯数 約 10,000 世帯 (H22.8)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市と隣接し、川崎市が主な生活圏となっています。 ・近年、マンション等の建設により、新住民が増加しており、特に30歳代と65歳以上の高齢者が大幅に増加しています。
協力し合っ ている団体	矢向地区連合町内会、自治会町内会、矢向地区社会福祉協議会、矢向地区民生委員児童委員協議会、矢向地区保健活動推進員、矢向地区老人クラブ、商店街、小学校、中学校、PTA、矢向地域ケアプラザ
取組内容	<p>矢向地区の連合町内会、自治会町内会、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進員、老人クラブ、7つのボランティア団体、地域ケアプラザ等で組織する鶴見区福祉保健計画地区計画の推進母体である「矢向あいねっと推進委員会」が中心となり、地区内の商店街、学校、PTA等と連携し、「隣近所のつながりを大切に、お互いを見守り合う、誰にとっても住みやすい『みんなが優しくなれるまち 矢向』」を目指した「笑顔でひと声ねっと・矢向」事業を実施しています。</p> <p>1 あいさつ運動</p> <p>標語、ポスターを募集し、最優秀作品の標語「声かけて 声かけられて うれしい 矢向」を入れたのぼりを町内会、商店街、学校、公共施設等に掲出し、あいさつ運動の地域全体への広がりを進めています。</p> <p>また、地域ケアプラザ・地区センター周辺を「あいさつの小路」とし、重点的にあいさつ運動を展開しています。</p> <p>2 見守り活動</p> <p>各家庭に「声かけあう町矢向」のステッカー、また、商店街に「声かけ合うやさしいお店」を配布し、住民同士の声かけやあいさつ運動を通じて、地域のつながりを深め、高齢者等の見守り活動や防犯対策を行っています。</p> <p>また、高齢者が外出先で突然倒れた場合や、認知症の方が外出先で身元がわからなくなった場合に迅速に対応できるよう、「とっちーホルダー（有償）」による高齢者の見守り活動の啓発を行っています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【標語入賞者の皆さん】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【声かけステッカー】</p> </div> </div>

モデル地区 指定日	平成22年10月12日
地域の概要	<p>(1) 区域 江ヶ崎町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 5,300 人、世帯数 約 2,200 世帯 (H22.8)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市と隣接し、川崎市が主な生活圏となっています。 ・近年、マンション等の建設により、新住民が増加しており、特に10歳未満、30歳代から40歳代前半、65歳以上の高齢人口が大幅に増加しています。
協力し合っている団体	江ヶ崎町内会、江ヶ崎地区社会福祉協議会、江ヶ崎地区民生委員児童委員協議会、江ヶ崎地区保健活動推進員、小学校、中学校、PTA、矢向地域ケアプラザ
取組内容	<p>江ヶ崎町内会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、地域ケアプラザ等で組織する地区福祉保健計画の推進母体である江ヶ崎・あいねっと推進協議会が中心となり、地区内の学校、PTA等と連携し、「支えあう・助け合うまち 江ヶ崎」を目指し、住民同士の顔の見える関係づくりの事業を実施しています。</p> <p>1 要援護者救援の仕組みづくり</p> <p>災害時における要援護者および救援協力者をリストアップし、地区内の緊急時救援体制の確立を進めています。また、防災講演会を2回開催し、災害への普段からの備え、救援協力者の役割、防災訓練の実践的な実施、災害発生時の避難、救助方法など、災害時の要援護者支援に取り組んでいます。</p> <p>2 高齢者の見守り活動</p> <p>高齢者安心カードの更新や防災グッズの配布等を通じて高齢者の見守り活動を進めています。</p> <p>3 新旧住民の交流活動</p> <p>○ ミステリーツアー</p> <p>まちの魅力ポイントをクイズ形式で探すミステリーツアーで、子ども達や新住民の人達に自分の町を知っていただくとう「まちあるき」を行いました。</p> <p>また、当日は、地区内の消火器、防火水槽の設置場所等を確認するなど、まちの魅力ばかりでなく、防災についても学びました。</p> <p>○ あいさつ運動</p> <p>顔と顔が見える町づくりを進めるため、標語を募集し、優秀作品の標語を入れたのぼりを地区内随所、学校等に掲出して、あいさつ運動を進めています。</p> <p>優秀作品標語</p> <p>「あいさつと 笑顔のあふれる 江ヶ崎町」</p> <p>「こんにちは その一言を 自分から」</p> <p>「あいさつで 笑顔が変わる 新鶴見」</p>



【防災講演会】

モデル地区 指定日	平成21年1月16日
地域の概要	<p>(1) 区域 新子安地区連合自治会、子安通1丁目連合自治会、入江地区連合町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約26,400人、世帯数 約14,100世帯 (H22.9)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな工場を持つ企業が数多く立地する臨海部に隣接したエリアです。 ・区内でも比較的高齢化率が高く、災害時要援護者数も多い地域を抱えています。 ・一定の地域に多くの住宅が密集しているとともに、国道1号線や15号線、JR京浜東北線や京浜急行、さらには運河などに挟まれたエリアが多く、避難場所の確保が難しい地域です。
協力し合っている団体	新子安連合町内会・子安通1丁目連合町内会・入江連合町内会、臨海部の企業10事業所（浅野学院を含む）、神奈川消防団第1分団、神奈川消防署、神奈川県役所
取組内容	<p>1 地域の活動を始めたきっかけ</p> <p>平成21年1月16日に、京浜臨海部に立地している7社の事業所、地元の3つの連合町内会、子安小学校地域防災拠点運営委員会、神奈川消防署、神奈川県役所との間で、総合的な防災協定を締結しました。</p> <p>この協定により、各事業所において、避難場所の提供など可能な協力を行っていただくこととなり、その協力内容を、より実効性のあるものにするため、消防団、学校並びに、既に防災協定を締結している自治会及び事業所の参加も得て平成21年3月に防災協議会を発足しました。</p> <p>2 活動・連携の効果</p> <p>行政が地域と企業との間に入り協議会が発足され、災害時の連絡体制の構築や物資の提供方法等の具体的な運用方法の検討ができました。</p> <p>また、検討した内容の運用方法等を確認するため、子安小学校地域防災拠点において地域、事業所、行政等と連携した防災訓練を実施しています。</p> <div data-bbox="1082 1272 1430 1541" data-label="Image"> </div> <p>【子安小学校地域防災拠点における防災訓練の様子】</p> <p>3 今後の課題</p> <p>地域における防災の担い手が不足していることや地域における災害時要援護者対策について、検討が必要となります。</p>

モデル地区 指定日	平成21年1月16日
地域の概要	<p>(1) 区域 羽沢地区自治会連合会、三枚地区連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 19,400 人、約 8,900 世帯 (H22.9)</p> <p>(3) 町の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川区の西部に位置し、大規模な農業専用地区など多くの農地や樹林地などの緑が多い地域です。保土ヶ谷区と隣接しています。 ・ 平成27年4月に相鉄・JR直通線の新駅が開業する予定です。 </p>
協力し合っている団体	羽沢連合町内会、三枚連合町内会、羽沢駅周辺地区まちづくり協議会（新駅予定地から1kmを範囲とする神奈川区・保土ヶ谷区民、農業従事者、横浜国大等で構成）
取組内容	<p>相鉄・JR直通線の整備により、平成27年に旅客駅が設置されることになり、交通利便性向上が期待される一方、様々な開発に伴う、農地や緑地など自然環境の減少が懸念されました。</p> <p>そこで、今後のまちづくりを検討するため「羽沢駅周辺地区まちづくり協議会」を地域住民や農業従事者等により結成し、自然との触れ合いと生活利便性の調和をコンセプトとする「羽沢駅周辺地区プラン（協議会案）」をまとめました。</p> <p>今後は、協議会案を基に横浜市が行政的な視点を加え、横浜市都市計画マスタープランの「羽沢駅周辺地区プラン」が策定され、まちづくりに反映されることとなります。</p> <p>協議会の活動を通じ、保土ヶ谷区民との交流も生まれたので、地域交流がさらに促進され、新駅の開業へ向けての盛り上がりが期待されます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【まち歩きの様子】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【図面を前に議論】</p> </div> </div>

西区 東久保町地区

モデル地区 指定日	平成21年10月7日
地域の概要	<p>(1) 区域 西区東久保町全域</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約3,900人、約1,900世帯（H22.8）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区の旧市街地に位置した密集市街地で、木造一戸建て住宅が多い地域です。 ・地形的には狭い坂道と階段が多く、高台にあり、危険ながけも多くあります。 ・古くからの居住者が多く、高齢化率が高くなっています。
協力し合っ ている団体	3自治会町内会（東朋会・東台会・東睦会）、東久保町夢まちづくり協議会
取組内容	<p>当地区は、狭い道が多く、古い木造住宅が密集しているなど防災上の課題を多く抱えているため、平成15年に「いえ・みち まち改善事業」（都市整備局所管）の対象地区の指定を受けて以降、地域・行政・NPOの協働による防災まちづくりの勉強を始め、平成17年の「まちづくり協議会」の設立を経て、平成19年には防災まちづくりに関する具体的な取組を盛り込んだ「防災まちづくり計画」を策定しました。</p> <p>計画策定後は、「防災まちづくり計画」に基づき、地域の課題解決に向けて「いえ」「みち」「まち」「ぼうさい」の4つのグループに分かれ精力的に取り組んでいます。</p> <p>協議会は、3つの自治会で構成されていますが、協力して財団を設立し、1つの町内会館を共有使用したり、夏祭りなどの大きな地域の行事は一緒に行うなど、かねてから連携する風土があり、まちづくり活動においても3つの自治会が協力して取り組むことにより大きな効果につながっています。</p> <p>整備事例としては、坂道の名称プレートの設置や、かまどベンチ・雨水タンクの設置などがありますが、防災設備が充実されるだけでなく、協議会名を表示することにより活動のPRにもつながっています。</p> <p>また、活動費については、市の助成制度を活用する他、市内の農家から仕入れた野菜を地区内で販売し、その利益を自主財源に充てています。この活動は、坂の多いこの地域において、坂の下まで買い物に行けない高齢者などが野菜を買うことのできる場として生活支援にも役立っています。</p> <div data-bbox="1082 1249 1423 1451" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">【3自治会共同の防災イベントの様子】</p> <div data-bbox="368 1496 826 1832" data-label="Image"> </div> <p>平成21年には、行政の支援を更に拡充するため「身近な地域・元気づくりモデル事業」のモデル地区として指定を受けました。</p> <p>「元気づくり事業」の助成金を活用して、この地域に多い「行き止まり」道路や協議会が自ら防災まちづくり計画に位置づけた「防災『準』拠点」などを記載した防災マップを災害時の行動マニュアルと合わせて作成、地域全戸に配布しました。また、防災イベントで周知し、防災意識の向上を図りました。</p> <p>このような様々な地域活動を通じて地域の「つながり」が強固になり、いざという時の助け合いにつながっていくことが期待されます。</p> <p>今後は、取組をより一層周知していくとともに、自主防災組織設立に向けた検討などのソフト的な取組と、狭あい道路の拡幅や建物の耐震化など、権利者との調整を要するため課題の多いハード的な取組も併せて進め、安心して住み続けていける災害に強いまちづくりを進めていくとともに、取組を通じて地域コミュニティの形成につなげていきたいと考えています。</p>

モデル地区 指定日	平成21年4月10日
地域の概要	<p>(1) 区域 第4地区南部連合町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約11,000人、約4,700世帯 (H17.10)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開港前からの本牧の歴史・文化は現在も多くの人を魅了しています。 ・本郷通り沿いの商店街とその南側の住宅地から構成されています。 ・緑が多く、湧水などの自然に恵まれた地域ですが、反面、狭い道や坂が多く、生活上の負担があります。
協力し合っている団体	第4地区南部連合町内会、自治会町内会、第4地区南部地区社会福祉協議会、本牧原地域ケアプラザ、中本牧コミュニティハウス
取組内容	<p>当地区では、自治会町内会を中心に、地域の団体・施設等が集まり、まちの元気づくりをめざして活動しています。</p> <p>活動の手始めとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力の発見・PR ・地域課題の抽出 ・世代間など住民間の交流 <p>を目標に、プロジェクトを実施しました。</p> <p>○まちの探検隊・・・地域の魅力を発見し、地域の課題を抽出する試み。</p> <p>○菜園づくり・・・世代間、住民間の交流を図る試み。</p> <p>また、中区地域福祉保健計画第2期計画の第4地区南部の地区別計画の策定に取り組みました。</p> <p>○地区別計画策定のワークショップ テーマ「地域のよいところを伸ばす、困っているところを解決する」</p> <p>当地区の状況として、高齢化率が市及び区の平均を上回っており、今後支援が必要となってきます。また、本牧通りを中心とした歴史ある商店街は近年、店舗数が減少しており、にぎわいづくりが課題となっています。</p> <p>今後、こうした地域課題の解決に向けた取組を進めていきます。その際、地域としてどういった対応が可能か検討し、実行につなげていくことが課題です。</p> <p>また、歴史・文化・自然など、地域の豊富な魅力資源を活かし、地域のネットワークの拡大を図る活動を行っていきます。</p> <p>取組の推進には、さらに地域の連携を進め、それぞれの長所を出し合うことが必要であると考えています。</p>



【まちの探検隊】



【菜園づくり活動】



【地域福祉保健計画地区別計画策定のワークショップ】

中区 初黄・日ノ出町地区

モデル地区 指定日	平成21年10月2日
地域の概要	<p>(1) 区域 初黄町内会、日ノ出町町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約2,400人、約1,100世帯（H17.10）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京浜急行線の日ノ出町駅と黄金町駅の間、大岡川に隣接した地域です。 ・かつて、違法飲食店が集中し生活環境の悪化が問題となっていました。警察・行政・地域の連携した取組により、そうした店舗は閉鎖しました。
協力し合っている団体	自治会町内会、PTA、東小学校、横浜市大、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター等
取組内容	<p>町内会、PTAを中心に組織された「初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会」では、違法な飲食店が閉鎖された後のまちの再生へ向けて、防犯パトロール、清掃活動、まちづくりニュースの発行、将来のまちづくりに関する検討、黄金町バザール等のイベントの開催などに取り組んでいます。</p> <p>アートによるまちづくりを掲げ、かつてのまちに戻さないとともに、アトリエ、スタジオ等の集積によるまちの活性化をめざしています。こうしたまちの基盤をつくる取組の推進には地域の各団体の連携が不可欠です。</p> <p>取組の成果として、まちに多くのアーティスト等が集まる一方で、地域では近年マンションの建設が進み、多くの新住民が居住しています。</p> <p>まちの継続的な活性化に向けて、まちとしての一体感を醸成するには、こうした新しくまちにきた人々が積極的に地域活動へ参加する必要があります。また、まちづくり活動を担う新たな人材の発掘も必要です。</p> <p>こうした課題解決に向けた取組として、新しい住民を対象にまちづくりや地域活動への参加についてアンケート調査を実施し、また、新しい住民が地域活動へ参加するきっかけづくりとして、市大学生の協力のもと住民同士が気軽に交流するイベント「隣人まつり」を開催しています。取組は端緒であり、今後いかに成果をあげていくかが課題となっています。</p>
	 <p>【協議会会議】</p>
	 <p>【防犯パトロール】</p>
	 <p>【黄金町バザール】</p>
	 <p>【隣人まつり】</p>

～地域の力は、お互いの命を守る～
南区 六ツ川地区連合自治会地区

モデル地区 指定日	平成21年6月19日
地域の概要	<p>(1) 区域 六ツ川地区連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約11,700人、約5,300世帯(H22.9)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年代から開発された住宅地で、主要地方道平戸桜木町線に沿って店舗が立ち並び、その背後の丘陵地に住宅地が連なっています。 ・交通手段としてはバス及び徒歩で京浜急行「弘明寺」駅にアクセスしています。
協力し合っている団体	六ツ川地区連合自治会、「チーム防災六ツ川」(H20.7に地域の防災意識向上を目指して結成された自治会町内会の防災部長と家庭防災員を構成メンバーとする団体)、自治会町内会長、消防団員、青少年指導員、体育指導委員
取組内容	<p>(地域の課題、活動のきっかけ)</p> <p>当地区は崖地等を含んだ高低差のある地勢が多く、地域の防災対策が地域の課題になっていました。</p> <p>そこで、連合の防災部を、防災部長や家庭防災員の意識啓発のために「チーム防災六ツ川」として改めて組織化し、平成20年6月から活動を開始しました。</p> <p>(工夫した点)</p> <p>「チーム防災六ツ川」を立ち上げるにあたり、事務局機能を持ったスタッフ会議を同時に立ち上げました。そのメンバーとしては、地域で実際に活動をしている意識の高い若いメンバー(青少年指導員、消防団員、体育指導委員等)を集めました。</p> <p>(これまでの活動内容)</p> <p>1年間の行動計画を「アクションプラン」としてまとめ、そのプランに基づいて様々な活動を行ってきました。防災ウォークラリー、DIG(災害図上訓練)、救命講習フェア、横浜市防災センターの見学会、地域防災の講演会(「自助－自分でやること・出来ること－」、「女性の視点から考える防災まちづくりと行動」等)、防災マップの作成と全戸配付など様々な取組を行ってきました。</p> <p>(今後の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭防災員の中から、行事やイベントの準備に参加してくれる人を発掘し、講座への参加から、運営側に参加してもらう人を育成していくことが課題です。 ・各家庭レベルの地域防災の関心のレベルアップのための工夫が必要で、そのための有効な活動をどう進めていくかが課題です。



【救命講習フェア】

南区 中村地区連合町内会地区

モデル地区 指定日	平成22年4月21日
地域の概要	<p>(1) 区域 中村地区連合町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約16,200人、世帯数 約9,100世帯 (H22.9)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の道路は南側の丘陵地に向かっており、急勾配の道路が多くなっています。 ・戸建住宅が丘陵地の地形や緑地を取り入れるように整備されています。 ・戦前から低所得者への支援事業が展開される福祉活動の盛んな地域です。
協力し合っ ている団体	<p>「なかむら ふるさとづくり実行委員会」</p> <p>構成メンバーは中村地区の ①社会福祉協議会 ②連合町内会 ③主任児童委員 ④小中学校 ⑤地域ケアプラザ ⑥NPO法人等</p> <p>※平成19年5月に、中村地区地域福祉保健計画に定める『誰でもがいきいきと暮ら していける街』の実現や福祉保健の支えあいネットワークづくりのため、様々な 事業を企画・実行するために設置された組織。</p>
取組内容	<p>実行委員会の活動はすべて地域福祉保健計画地区別計画に位置づけられていま す。</p> <p>22・23年度のアクションプランとして</p> <p>① 地域交流の機会を広げるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の名人達人紹介 ・ 健康と福祉まつり「七夕フェスタ」 ・ なごみのティサロン ・ 新春もちつき大会 ・ 外国文化交流「料理づくり交流」 ・ 地区社協講座の開催【新規】 ・ 子ども交流事業【新規】 <p>② 地域活動を活性化するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会報紙「みどりと風と」の発行（年間3回） ・ ホームページの開設、運営【新規】 <p>③ つながりの輪を広げるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域施設団体が開催するレインボーフェスタへの支援 ・ 施設団体連絡会の開催（年間2回）【新規】 <p>④ 災害時支援を広げるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の見守り活動等への協力 ・ 外国人生活相談会の開催【新規】 <p>を実施します。</p> <p>「身近な地域・元気づくりモデル地区指定」を受けて、【新規】の事業を開始しま す。</p>



【もちつき大会】

モデル地区 指定日	平成19年8月29日
地域の概要	<p>(1) 区域 ひざり連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約8,200人、約2,900世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴 ・昭和40年代に開発された広い敷地の戸建て住宅が大半の地域で、マンションや社宅が一部混在しています。 ・すでに高齢化率が30%を超えている地域もあります。</p>
協力し合っている団体	ひざり連合自治会、自治会町内会、民生委員・児童委員、地域防災拠点運営委員会、ひざり地区社会福祉協議会、NPO等各種地域団体等
取組内容	<p>当地区は、昭和40年代に開発された広い敷地の戸建て住宅が大半の地域で、マンションや社宅も一部混在していますが、戸建て住宅の住民には高齢者が多く、地区全体として高齢化の課題を抱えています。</p> <p>また、戸塚区との区境に位置しており、ケアプラザ・地区センターなどの公的施設はありません。</p> <p>そこで、「災害時要援護者対策」をキーワードに助け合い協議会を設立し、月1回要援護者宅を訪問することで、実質的な見守り活動を実践しました。</p> <p>モデル地区指定時は、連合内の有志による「災害時助け合い協議会」としての活動でしたが、自治会との関係が希薄になると活動に影響があると考え、平成22年度からは自治会との関連を深めた3つの「助け合い協議会」に分割し、〈見守り〉を主体とした活動に転換しています。</p> <p>また、地区としては、地域福祉保健計画の浸透と推進を図るための「いきいき幸せプラン・街づくりワイワイトーク」を年1回開催し、住民どうして自由に意見を交わしたり、～ひざりを気持ちのいい街に～をキャッチフレーズにした「あいさつ運動」を推進しています。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【ワイワイトーク】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【あいさつ運動】</p> </div> </div>

モデル地区 指定日	平成19年8月29日
地域の概要	<p>(1) 区域 日野南連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約4,500人、約1,600世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴 ・昭和40年代後半から造成された広い敷地の戸建てを中心とした住宅地です。 ・住民の年齢層などに同質性が高く、すでに34%を超える高齢化率となっています。</p>
協力し合っている団体	日野南連合自治会、日野南小学校地域防災拠点運営委員会、日野南地区社会福祉協議会
取組内容	<p>造成された宅地に同年代の住民が同時期に住み始めたことにより、高齢化のスピードが速く、継続的な地域活動の担い手確保が課題になっています。</p> <p>また、栄区との区境に位置するため、災害時などに行政の支援が遅れることが想定されるということで、住民には「自分たちでなんとかしよう」という意識が強くある地域です。</p> <p>そこで、災害が発生した場合、まず自分の家族と隣近所の安否確認をし、そして必要ならば助け合う「向こう三軒両隣方式」の災害時要援護者対策を構築しました。</p> <p>さらに、災害が発生したときに「あなたは何かお手伝いしてくれますか」とのアンケートに「協力します」という回答が多数あり、350人もの「災害協力員」が生まれています。</p> <p>交番も無い区境に位置することで、空き巣や強盗の被害に会うリスクも高く、ボランティアによる防犯パトロール「みちの会」が結成され、「安全・安心ステーション」の完成と「みちの会」のパトロールで被害は激減しています。</p> <p>このパトロールの特徴は「動く井戸端会議」と呼ばれるように、一切の規約や義務を伴わず、自由参加でおしゃべりしながら“健康と防犯・一挙両得”で多くの住民が楽しみながら実践しています。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【安全・安心ステーション】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【災害発生時想定訓練】</p> </div> </div>

港南区 野庭団地地区

モデル地区 指定日	平成20年9月1日
地域の概要	<p>(1) 区域 野庭団地連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約5,400人、約2,000世帯 (H17国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年代に市住宅供給公社が開発した大規模分譲集合住宅地です。 ・連合自治会と地区社会福祉協議会との関係が良く、毎月、合同定例会を開催するとともに、「ふるさとのば福祉のつどい」を共催するなど、緊密な連携が図られています。 ・平成12年→17年で高齢化率は12.1%→20.7%と大きく8ポイント上昇しています。
協力し合っている団体	野庭団地連合自治会、野庭団地地区社会福祉協議会、野庭団地地区地域支えあいネットワーク
取組内容	<p>今後の超高齢化を見ずえ、連合自治会、地区社会福祉協議会、区役所が連携し、集合住宅における高齢者のための施策検討のモデルとなる「アンケート調査」を平成20年度に実施しました。</p> <p>アンケートの結果を踏まえ、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 連合自治会では、住民の話し合いなどを通じて、既存の活動を活かした「要支援者の見守り」などの取組を検討しています。 2 地区社会福祉協議会では、「ふるさとのば福祉のつどい」の中で、アンケートの結果とそれに対応した同協議会などの活動を組み合わせて掲示、さらに、活動内容を印刷物にし全世帯に配布して、活動の周知と利用の拡大を図っています。 3 地域支えあいネットワークでは、地域の資源や活動を知ってもらうため、これらを紹介した情報紙を発行（「子育て情報版」を平成21年度に、「大人、高齢者版」を平成22年度に）全世帯に配布しました。 <p>また、高齢化が進む地域で課題となっている、活動の担い手不足や既存の担い手の高齢化を解決する一つ的手段として、野庭地区センター自主企画講座「野庭をあ・じ・わ・う」を平成21年度から実施しています。この講座は、地域活動の人材発掘、地域の施設と活動者との連携強化などを目的としています。</p> <p>講座では、地元の地域活動のキーパーソンが講座の企画・運営の中心になり、講座の受講者が次年度は講座のスタッフとして講座の企画・運営に携わることで、地域住民どうしや地域の施設とのつながりを持ち、将来的には、地域活動の担い手になることを狙いとしています。また、これからの地域の施設としての地区センターの役割を示すモデル事業にもなっています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【福祉のつどい】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【「野庭講座」地域の民話を紙芝居にして発表】</p> </div> </div>

モデル地区 指定日	平成20年10月5日
地域の概要	<p>(1) 区域 日野第一地区連合町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 12,600 人、約 4,800 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くからの一戸建てと鎌倉街道や環状2号沿いのマンションが入り混じる地域です。 ・高齢者が多い地域・30歳代年齢層が多い地域・多様な年齢層が混在している地域、概ね3つのパターンからなる自治会町内会で構成されています。
協力し合っている団体	日野第一地区連合町内会、自治会町内会、地区民生委員児童委員協議会、日野第一地区社会福祉協議会、日野第一地域支え合いネットワーク
取組内容	<p>高齢者が多い地域・30歳代年齢層が多い地域・多様な年齢層が混在している地域、概ね3つのパターンからなる自治会町内会で構成されており、世帯数も多いため、連合としてまとまるのが難しいという課題があります。</p> <p>そこで、連合未加入団体・者も含めて多世代の地域住民が交流を図る「ふれあいフェスタ」を毎年開催し、3,000人を超える参加者に自治会・町内会活動のPRをすることで、自治会・町内会加入促進の一助としたり、学童保育の会・お父さんの会など若い層の模擬店出店を促進し、若い層の人々に地域活動の楽しさ・重要さを認識してもらう取り組みにしています。</p> <p>また、地域では最も困難な取組のひとつである、自治会・町内会の統廃合・再編をスムーズに実施し、平成22年5月に2自治会を廃止、4自治会を新たに発足させました。</p> <p>災害時要援護者対策は日野清風苑町内会が平成20年度から「向こう三軒両隣方式」で実施しています。</p> <p>そして再編後の吉原4町内会では、災害時要援護者対策を日ごろの隣り近所の助け合いの延長として考え、回覧や町内会費徴収など自治会活動の機会を利用して声掛けを行い、要援護者の把握をして情報共有しています。</p>
	 
	【ふれあいフェスタ（平成22年10月3日）】

～つなごう地域の絆～
保土ヶ谷区 上新地区

モデル地区 指定日	平成20年5月16日
地域の概要	<p>(1) 区域 上新地区連合自治会のエリア（千丸台団地、笹山団地を除く）</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 15,400 人、約 5,600 世帯（H17 国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴 ・山坂が多くまだ田園風景も残る地域です。 ・昭和35～50年に、中小規模の開発により形成された市街地です。</p>
協力し合っ ている団体	上新地区社会福祉協議会、上新地区連合自治会（14自治会）、地区民生委員児童委員協議会、体育指導委員連絡協議会、青少年指導員協議会、保健活動推進員、老人クラブ、区民会議委員、ボランティア、保土ヶ谷区役所、保土ヶ谷区社会福祉協議会、上菅田地域ケアプラザ、など
取組内容	<p>当地区はエリアがとても広く（上菅田町、新井町）、地区内のコミュニケーションや連携を進めることが課題の1つとなっていました。平成17年度に、ほっとなまちづくり（保土ヶ谷区地域福祉保健計画）の策定を契機に、地区各組織・団体が構成されている地区社会福祉協議会を母体に「ほっとなまちづくり懇談会」を立ち上げ、取組を始めました。</p> <p>まずは、概ね2か月に1回の地区懇談会（現在：身近な地域元気づくり・ほっとなまちづくり委員会）を開催し、地域にある各組織・団体がお互いの活動内容を知り、情報を共有することによって、お互いの距離が縮まりました。同時に、「自分たちの地域の課題は自分達がやらなければ！」という共通認識も生まれました。そして、地域における課題等を自分たちで解決できる地域運営システムが構築され、地域の連携が図れるようになりました。</p> <p>また、さまざまな世代が地域活動に関心を持ち、誰もが参加できる上新地区体育祭は41回目を迎え、地域の交流と住民の団結と行動力を高揚する場になっておりましたが、さらに、モデル地区の指定を受け、「上新地区福祉・健康まつり」や「じょうしん健康ウォーキング」の企画・運営、「上菅田・新井町散策マップ」の発行・各戸配付、広報紙「じょうしん」の定期発行などにより、地域での取組や行事を紹介し、地域の活性化につなげています。これらにより、ふれあい交流の輪がひろがり、地域の一体感が深まっています。</p> <p>今後の課題としては、さらに活動を充実させるために予算編成の工夫が必要なこと、及び、委員会の事務局を置く活動拠点と専任スタッフの必要性などがあげられます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>【身近な地域元気づくり・ ほっとなまちづくり委員会】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【上新地区 福祉・健康まつり 3日体操クラブ・転倒予防体操】</p> </div> </div>

旭区 旭北地区

モデル地区 指定日	平成20年6月2日
地域の概要	<p>(1) 区域 旭区上白根地区のうち、旭北地区連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 18,900 人、約 8,400 世帯 (H21.9)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の北部を流れる中堀川沿いの丘陵地に開けた住宅街で、昭和40年代以降開発が進みましたが、市街化調整区域も多く緑豊かな地域です。 ・平成14年をピークに、緩やかに人口が減少し、高齢化も進んでいます。
協力し合っている団体	旭北地区連合自治会、旭北地区防災防犯委員会、旭北地区社会福祉協議会、NPO法人たちばな福祉会、子育てボランティア団体 など
取組内容	<p>旭北地区は、地域課題の解決に向け、「誰もが住み続けたいふる里づくり事業」を進めてきました。</p> <p>①子育て支援…子育ての地域拠点の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年5月より、白根商店街の空き店舗を活用し、子育て広場事業を展開（原則月・火・水・金曜の週4回（10～16時）開設）  <p>【親子サロン「メダカ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で遊ぼう会、母親サロン、子育て経験者やジュニアボランティアとの交流、子育て相談、講習会などの開催 <p>②高齢者・障害者支援…まちぐるみ福祉推進会議を設置して、取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者リスト作成等による支援体制づくり ・一人暮らし高齢者の把握、見守り活動（横浜市一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業）、見守りカード作成による一人暮らし高齢者支援体制づくり ・健康づくりアンケートの実施、折り紙細工教室や講演会の実施による高齢者の引きこもり予防・活動の場づくり <p>③安全・安心のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふる里事業拠点に安全・安心ステーションを併設し、防犯に強いまちづくりを推進＜防犯パトロールの実施等＞ ・災害時要援護者支援拠点の構築＜災害時要援護者救援のためのレスキュー隊を結成＞  <p>④上白根ふる里公園、中堀川プロムナード整備に伴う地元サポーターによる清掃や植栽の手入れ等の愛護活動の実施</p> <p>⑤地域緑のまちづくり事業に取り組み、地域の緑化を推進</p> <p>【中堀川プロムナード】</p>

モデル地区 指定日	平成20年6月2日
地域の概要	<p>(1) 区域 若葉台連合自治会のエリア（旭区若葉台1丁目～4丁目）</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 16,100 人、約 6,600 世帯（H22.7）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年代前半～60年代初めにかけて建設された、県住宅供給公社が開発した分譲中心の大規模な高層住宅団地です。 ・平成12年をピークに人口減少が続いています。 ・50歳代後半を中心とした世代の割合が、市平均と比較して高く、今後、急速な高齢化が見込まれています。
協力し合っている団体	若葉台連合自治会、NPO法人若葉台スポーツ・文化クラブ、若葉台地区社会福祉協議会、（財）若葉台管理センター
取組内容	<p>（少子・高齢化対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若葉台地区の小・中学校5校が小中各1校に再編統合され、その後の跡地活用検討の結果、地域の意向を踏まえ3校の跡地活用用途が決定し、整備が進められています。 ・地域支えあい連絡会を中心に第2次地域福祉保健計画を策定しています。 ・子育て支援グループの活動支援や、学童保育所の支援などを行っています。 ・「高齢者を地域全体で支える体制作り」「障害者の居場所づくり」「中高生の場所づくり」などを現在検討中です。 ・高齢者や定年後の住民の地域活動への勧誘に取り組んでいます。 <p>（安全・防犯・防災対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の見守りによる学童の登下校安全確保 ・各単位自治会&管理組合による地区内夜間パトロールの実施 ・地域全棟のエレベーター内への監視カメラの設置 <p>（まちの魅力創造・ふるさとづくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4万人が参加する「若葉台夏まつり」や、年間を通した各種行事催しを開催し、地域の活性化に取り組んでいます。 <p>（地域の新たな環境への取組）</p> <p>環境に配慮され開発された緑の多い団地で、三保、新治の2つの市民の森に隣接し、住民の環境維持に関する関心が極めて高い地域で、平成19年から「みどり・みず・みち 自然への恩返し」プロジェクトがスタートしました。連合自治会、商店会、小中学校、市環境創造局が協働で活動し、3年を経過した、平成22年6月には横浜市環境活動賞実践賞を授与されました。</p>



【緑豊かな若葉台団地】

～あいさつと笑顔あふれる街づくり～
磯子区 滝頭地区及びその周辺地区

モデル地区 指定日	平成20年7月16日
地域の概要	<p>(1) 区域 中学校区のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 29,800 人 約 11,500 世帯 (H21.3)</p> <p>(3) 町の特徴 昭和35年までに市街化していた既成市街地で、木造住宅が密集している地域です。</p>
協力し合っ ている団体	滝頭地区連合町内会、磯子・岡村地区自治会町内会の一部、民生委員・児童委員、青少年指導員、体育指導委員、老人会、PTA、おやじの会、保育園、ボランティアグループなど
取組内容	<p>地域の青少年健全育成のため、「子どもの幸せを実現する会」では、次の取組を実施しています。また、中学校内の地域交流室に事務局を置き、活動を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 廊下清掃班 PTA環境保護会とともに、授業中に廊下等にいる生徒に声をかけながら清掃をします。 2 外清掃班 授業中、校庭や学校の周りの道路にいる生徒に声をかけながら清掃します。 3 花壇作り班 花壇で草花を植え、廊下にその花を飾りながら生徒の見守り活動をします。 4 学習支援班 授業に参加しない生徒に、その生徒に応じた学習支援を行います。 5 お話し相手班 授業に参加しない生徒に対して、話し相手になり学習参加意欲を引き出します。 6 ニュース作成班 2か月に1回程度の割合でPR用として「えりまねニュース」を発行します。 7 見守り挨拶班 会員の自宅付近で園児、児童、生徒の登下校時に、あいさつ・見守り活動を行います。 8 地域パトロール班 地域パトロールを実施します。防犯関係の地域団体と一緒にすることもあります。 9 公園パトロール班 公園の清掃を地元の愛護会とともにを行います。 10 授業参観班 中学校で行われている授業参観週間を中心に、全クラスの授業参観を行います。 11 登校挨拶班 毎週2回、校門に立ち、登校する生徒にあいさつを行います。 12 その他 小学校への学習支援（中学校周辺） 週5日、午前中、学習支援員が小学校に行き、朝のあいさつ運動、授業の支援、校外学習の引率などの活動を実施しています。



【花壇整備】



【公園パトロール】



【あいさつ運動】

モデル地区 指定日	平成21年10月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 日吉地区連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約 69,600 人 約 34,400 世帯 (H22.9)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東急東横線を挟んで東西に長く、山坂が多い地形です。 ・人口、面積とも区内の連合町内会で最大規模の地区です。 ・日吉駅東部には、慶応大学日吉・矢上キャンパスがあり、学生街となっている。 ・西部方面へ向かってグリーンラインが開通し、利便性が向上している
協力し合っ ている団体	日吉地区連合自治会、自治会町内会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、日吉地区社会福祉協議会、日吉本町地域ケアプラザ、下田地域ケアプラザ
取組内容	<p>日吉地区は港北区の最北部に位置し、東急東横線日吉駅を挟んで東西に長く、連合町内会としては、港北区内で最も広い面積と最も多くの人口を抱えています。交通は南北を東急東横線が、東西を市営地下鉄グリーンラインが通り、横浜市中心部やニュータウン、都内へのアクセスに便利な地域でもあります。</p> <p>山坂が多く比較的緑豊かな地域で、学生の街としてアパートが多く、大規模団地があり、転出入者や核家族が多いという特徴があります。</p> <p>日吉地区は大きく分けて5つのエリアから成り立っています。それぞれのエリアでは、自治会町内会、地区社会福祉協議会、ケア連絡会、ボランティアグループ、様々な福祉活動グループなどが、地域ケアプラザ（下田、日吉本町）や町内会館等を拠点として、様々な助け合い・支え合いの地域社会づくりの活動が行われています。高齢者向けの食事会や子育て支援のサロン、障害児者とのふれ合いなど実に多彩な活動が行われています。</p> <p>こうした、大きく多彩な地区であることの課題解決をするため、第1期地域福祉保健計画では、「福祉のまち日吉ネットワーク会議」を立ち上げ、それぞれのエリアを越えた、障害・高齢者・ボランティア・子育ての分科会活動をつくってきました。</p> <p>平成21年からは、身近な地域・元気づくりモデル事業のモデル地区として、「光と活力」実行委員会を立ち上げ、地区内の小さな活動にも光をあて、活力ある日吉地区をつくっていかうという試みを開始しました。平成21年度には第1回の福祉保健活動実践発表会を行い、22年度にも第2回を開催する予定です。</p> <p>今後は、「光と活力」の取組を更に拡充し、活動の交流から活動のネットワークづくりの発展へ目指しています。</p>



【活動実践発表中】



【パネル展示】

モデル地区 指定日	平成21年10月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 太尾地区連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約 23,700 人、約 11,300 世帯 (H22.9)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の大半は平坦な地形で、大倉山駅前には商店や医療機関も多く利便性が高い地域です。 ・北東部の公園や緑地、西部の鶴見川に囲まれ、自然環境にも恵まれています。
協力し合っている団体	太尾地区連合自治会、大倉山商店街振興組合、太尾地区防犯連絡協議会、太尾地区社会福祉協議会 他
取組内容	<p>太尾地区では、地域住民による青色回転パトロールや防犯拠点センターの設置など、防犯対策を積極的に行ってきました。また、防犯拠点センターが、みんなの居場所として、子どもから高齢者のまちの憩いの場、交流の場となるなど住民同士の結びつきが強い地区でもあります。</p> <p>平成21年度には、身近な地域・元気づくりモデル事業のモデル地区に指定され、学校と地域が連携した「子ども110番の家」のマップづくりのほか、大倉山（旧太尾地区）の住居表示整備を契機にまちの一体感を高めようと、スタンプラリー等のイベントを実施しました。</p> <p>平成22年度からは、太尾地区連合自治会、大倉山商店街振興組合が中心となり、大倉山を魅力あるまちにするため「大倉山夢まちづくり実行委員会」を設立し、まちの魅力や課題を発見しようとする取組を始めました。大倉山の住民や訪れる方たちに、愛着を持ってもらうために、大倉山記念館周辺の坂道の愛称募集の企画、実際にまち歩きを行ったりしながら大倉山公園周辺の魅力アップについて検討を進めています。地域のみ力だけでは解決できない課題については、関係機関と協働で解決を目指しています。</p> <p>太尾地区の防犯活動は、平成22年10月に安全・安心なまちづくり関係功労者として「内閣総理大臣表彰」を受賞しました。</p>



【坂道愛称名看板設置】



【区長室で受賞報告】

モデル地区 指定日	平成21年8月18日
地域の概要	<p>(1) 区域 池辺連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約12,000人、約5,200世帯 (H21.3)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <p>①「都筑野菜」等を生産・出荷する農業が盛んで市街化調整区域が過半を占める北部</p> <p>②緑産業道路沿いに工場、事業所が集積し、大型ショッピングセンターの開業（平成19年）により新たな人の流れが起きている南部 に二分されます。</p> <p>・人口は増傾向にあります。特に35～49歳と0～14歳の年齢層が5年前と比較すると大きく増加しており、大型マンション開発により、子育て世代が多く流入していることがわかります。</p>
協力し合っている団体	池辺地区連合自治会、池辺地区社会福祉協議会、池辺地区民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員、高齢者クラブ、子ども会、浄念寺川せせらぎ緑道愛護会 小学校、中学校、PTA、おやじの会、コミュニティハウス
取組内容	<p>当地区は、特に未就学児と子育て世代人口が急増し、今までの子育て支援事業だけでは、参加者があふれてしまうほどでした。そこで区役所の呼びかけに応じて協議会を発足し、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守る取組をはじめました。</p> <p>子育て世代の公園やコミュニティハウスでの居場所づくりや仲間づくりを応援したり、赤ちゃんふれあい体験、地域紹介映像の作成など、中学生向けの事業も活発に行いました。</p> <p>夏恒例の「そうめん流しと工作教室」を小学校校庭で実施し、自治会未加入世帯にも広く呼びかけ例年の2倍近い小学生や保護者が参加し、こどもたちが地域を知る機会を増やすことができました。</p> <p>既存の自治会行事の参加の対象を自治会未加入者へも広げることで、それぞれの事業の認知度も高まっています。これまで地域とのかかわりがほとんどなかった「浄念寺川せせらぎ緑道」も元気づくり事業をきっかけに愛護会が結成され、小学校と連携した花壇整備や、愛護会の定期清掃や補修によって、見違えるように整備されました。また、公園遊びに参加した人の中から、ボランティアとして運営のお手伝いをするグループも出てきました。しっかりとした自治会組織と急増している子育て世代をつなぐ役割として、学校の協力がありました。地域の子どもを核にして、今までの組織に子育て世代を加えた新たなネットワークが生まれています。この新しい連携の形をより強固なものにしていくために、地域に根付いた事業として子育て支援事業や緑道愛護会の活動に取り組んでいます。</p> <p>ボランティアなどの育成も課題の一つですが、元気づくり事業に参加した小学生や中学生が地域を知り、将来担い手となる日が来るのが地域の願いでもあります。</p>



【自治会館で遊ぼう】



【浄念寺川せせらぎ緑道】

都筑区 かちだ地区

モデル地区 指定日	平成21年8月18日
地域の概要	<p>(1) 区域 かちだ地区連合自治会（市営住宅の範囲）のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 入居者 約 2,300 人、約 1,200 世帯（H21.3）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年代に入居が始まった市営団地です。 ・団地内は坂が多く、高齢者は閉じこもりがち傾向にあります。 ・高齢化率約40%で、入居者のうち、65歳以上のひとり暮らし高齢者が29%を占めています。
協力し合っている団体	かちだ地区おもいやりネットワーク連絡会 かちだ連合自治会、かちだ地区社会福祉協議会、勝田団地地区民生委員児童委員協議会 かちだ地区保健活動推進委員会、老人クラブ、友愛活動員、昼食会代表、ボランティア代表、居宅介護支援事業者、介護保険サービス提供事業者、勝田団地指定管理者、区社会福祉協議会、新栄地域ケアプラザ、都筑福祉保健センター等
取組内容	<p>勝田団地のひとり暮らしの高齢者のなかには、外出がおっくうになり、閉じこもりになったり、ご自宅で倒れた状態で発見されることも少なくありませんでした。住民が安心して元気に過ごせるように、かちだ地区全体で取り組もう！と立ち上がったのが、かちだ地区おもいやりネットワークです。地域の中で孤立しがちな、ひとり暮らしの高齢者や、夫婦のみの高齢者世帯などに対する見守り、声かけ活動など、みんなが行えるような仕組みづくりを進めています。</p> <p>【緊急連絡先カード】 急な入院や体調不良などの緊急事態がおきたとき、すみやかに親族と連絡がとれるよう緊急連絡先カードの登録を全戸を対象にすすめています。70歳以上の高齢者の登録は95%となっています。</p> <p>【あんしんカード】 困ったときどこに相談すればよいのかわからないという声から、緊急連絡先や相談窓口の電話番号を記入したあんしんカードを全戸に配布しています。</p> <p>【ライト運動】 階段委員・友愛活動員・自治会役員で、夜間に電灯がついているか、また新聞や郵便物がたまっていないか、洗濯物が干されていない・干したままになっていないかなど、さりげなく見守り確認しています。</p> <p>【体操教室（太極拳）】 外出しない閉じこもりがちの方には、毎週1回集会所で開催している太極拳に参加を呼び掛けています。</p> <p>【サロンひだまり】 いつでも気軽に立ち寄れる場所として、毎週1回サロンを開催しています。</p> <p>【ちょっとしたボランティア活動】 地域で支えあうボランティア講座を開催しています。ちょっとしたボランティア活動への参加を呼び掛け、ボランティア活動についての学びを深めています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>【緊急連絡先カード】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【ライト運動】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【サロンひだまり】</p> </div> </div>

都筑区 中川西周辺地区

モデル地区 指定日	平成22年10月12日
地域の概要	<p>(1) 区域 中川西中学校区とその周辺エリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約26,000人、約9,300世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺に大型マンションが建設され、子育て世帯が急増しています。 ・ 居住年数が10年以内の世帯が多く、地域との関わりが希薄化しています。 ・ 地域活動の担い手が減少しています。
協力し合っている団体	自治会町内会、PTA、おやじの会、中川地区民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員、プレイパーク、公園愛護会、小・中学校、中川西地区センター
取組内容	<p>都筑区の北東部、青葉区に隣接した中川西中学校区は大型マンションと一戸建てが混在し、公園も多く大学や地域施設が点在する地域です。公園愛護会などテーマ型の活動は盛んな一方、地域活動の担い手は年々減少している地域です。</p> <p>小学校、中学校は児童生徒数は増加しているものの、放課後は外で遊ぶ子が少なく、子ども時代から地域との関わりが少なくなっているため、「地域ぐるみで子どもの成長を見守ること」「子育て世代の住民が地域に関心を持つこと」「異世代交流を盛んにして、地域の担い手を発掘すること」を目指して、元気づくりモデル事業の取組が始まりました。中学校1校と小学校5校のPTA会長や、おやじの会の会長などが子育て世代の代表として、自治会町内会や、地域の各種団体委員とともに協議会委員となり、それぞれの活動状況や、地域の情報を共有しています。ホームページ部会、地域交流部会、イベントプレイパーク部会などに分かれて、取り組んでいます。</p> <p>プレイパーク開催時は、600人以上の親子連れが、いつもと違う冒険心をくすぐるような公園遊びを満喫しました。プレイパークは自治会町内会、公園愛護会、おやじの会、PTAが協力し合っひとつのことに取り組むことができる、貴重なツールとなっています。</p> <p>ホームページは団体間の情報共有、地域への情報発信の役割が期待されています。</p> <p>地域交流会は自治会町内会役員と、PTA会員、おやじの会メンバーなどが地域の課題について意見を交わすことで、お互いを理解し、地域で取り組むべきことは何かを共に考える機会となっています。</p> <p>自治会、町内会や、子育て世代、サークル等が連携することで、新たなネットワークが構築されています。様々な年代の人たちが、地域で出会い、言葉を交わし、つながり、見守り、ともに汗を流す。そのような地域を目指し、活動に取り組んでいます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>【地域交流会で自治会関係者とPTA、おやじの会のメンバーが意見交換】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【親子連れでにぎわう牛久保公園プレイパーク】</p> </div> </div>

モデル地区 指定日	平成19年8月29日
地域の概要	<p>(1) 区域 県ドリームハイツ自治会、市ドリームハイツ自治会を中心としたエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約5,600人、約2,270世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年代後半に開発された郊外の高層集合住宅地で、急激に高齢化が進んでいます。 ・地域に必要なものを住民自らの活動で創り出し、子ども、障害児・者、高齢者への支援を活発に行っています。
協力し合っている団体	県ドリームハイツ自治会、市ドリームハイツ自治会、いこいの家夢みん、ふらっとステーション・ドリーム、ドリーム地域給食の会、ふれあいドリーム、ドリームの丘、地域のつどい、地域交流室運営委員会（地域運営協議会を構成する団体です。）
取組内容	<p>地域運営協議会では、高齢化が進んだ地域住民が地域にどのようなことを求めているか、明らかにするために、まず、住民アンケートを実施しました。その結果、明らかになった課題について、行政と協働して、課題解決の取組を始めました。</p> <p>代表的な取組を二つ紹介します。</p> <p>1 見守り体制の構築</p> <p>平成21年9月に深谷台小学校に地域交流室が設置され、このスペースを、地域運営協議会の拠点として利用できるようになりました。地域運営協議会の「見守りネット部会」では、そこに、「見守りネットセンター」を設け、土日を除く平日午前9時から午後3時のあいだスタッフを配置し、相談等を受ける体制をつくりました。12月から試行に入り、22年4月からは、本格運営にはいっています。また、22年3月には、見守りネットセンターの電話番号や緊急の場合の連絡先等を記入できる「安心カード」を全世帯に配布しました。</p> <p>22年度は、孤独死防止のために、センサー等を活用した見守り体制構築のために、3つのシステムについて比較検討を行っています。</p> <p>2 交通問題の取り組み</p> <p>ドリームハイツでは、子供の世代が独立転居し、親の世代が主に残って高齢化が進展している状況にあります。若い世代が入って支えなければ、いつか「老老支えあい」も限界に達します。そこで、通勤通学の利便性を高め、若い世代の入居促進を図る必要があるということで、バスの増便等交通問題に取り組んでいます。環状4号線沿いの自治会町内会と協力して運動を進めています。</p> <p>地域運営協議会は、二つの自治会と高齢者を支援するなどテーマ型のNPOが参加して運営されています。例えば、「安心カード」は、作成はNPO等が、配布は、自治会がバックアップするというように、互いの強みを生かして、地域の課題解決に協力しあっています。ただ、車椅子対策などハード面での課題解決には、困難があります。</p> <p>今後の課題の中心は、後続の世代による支えあいの活動の継承をどのような形で実現できるか、にあります。</p>



【「地域交流室」での会議風景】

～にぎわいの拠点を目指して～
戸塚区 戸塚駅東口旧東海道周辺地区

モデル地区 指定日	平成21年10月2日
地域の概要	<p>(1) 区域 「戸塚駅前地区中央土地区画整理事業」地域のうち、JR東海道本線東側部分及びその周辺地域</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約1,000人、約400世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸塚駅の東口では土地区画整理事業が、西口では大規模な再開発事業が行われています。 ・東口の旧東海道沿いを中心に、にぎわいあるまちづくりに向けた気運が高まっています。
協力し合っている団体	自治会町内会、商店会、地元活動団体（戸塚宿東集会 等）
取組内容	<p>戸塚駅周辺では、上記のように新たなまちづくりが現在行われていますが、一方で地元では、これらの事業終了後、特に旧東海道沿いを中心に町のにぎわいを持続させようという思いを持つ方々の活動が盛んで、自治会町内会、商店会としての動きのほか自主的な市民組織も相次いで立ち上がっています。</p> <p>こうした中、地元団体・地域住民が集まり、継続的にまちづくりの方向性等を話し合う場（「まちづくり拠点」）を作ろうという機運が盛り上がり、一年近くの検討期間を経て、平成21年12月に「旧東海道まちづくり拠点」を開設しました。拠点では、①まちづくりの基礎情報として、区画整理事業や旧東海道みちづくりプロジェクト等の情報提供、②気軽に立ち寄ってもらうための仕掛けづくりとして、地場野菜を活かした軽食の提供、野菜市の開催、地元団体と連携した地域のイベント等を行っています。</p> <p>オープンから1年以上経過し、試行錯誤を続けつつも、最近では地元の方の他に区内を散策する方の訪問も目立つようになりました。今後は、旧東海道という歴史資源を生かしたまちづくりができないか検討するとともに、新たな担い手の確保に向け知恵を絞る毎日です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【野菜市】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【桜まつり】</p> </div> </div>

戸塚区 北汲沢地区

モデル地区 指定日	平成22年9月14日
地域の概要	<p>(1) 区域 北汲沢地区連合自治会のエリア。</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約 5,500 人、約 2,300 世帯 (H22.6)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和30年代後半から40年代にかけて開発された戸建ての住宅が広がる地域で、大規模な共同住宅やマンションは見られないのが特徴です。 ・緩やかな斜面に戸建てが広がる地域で、坂道が多く、高齢者にとっては買物や病院へ通うなどの移動に不便な状況です。
協力し合っている団体	北汲沢地区連合自治会、自治会町内会、北汲沢地区社会福祉協議会、北汲沢地区民生委員児童委員協議会、保健活動推進員、老人会、ボランティア団体、汲沢地域ケアプラザ
取組内容	<p>地域の高齢者の増化に備え、バラバラに活動していた福祉関係団体やボランティアを一体化する必要性の認識が広がり、21年2月に「北汲沢地域総合福祉活動委員会」が立ち上がりました。</p> <p>まずは、住民のニーズがどのようなものを把握するために、21年度は独自の住民アンケートを実施しました（回収率47.7%）。その結果、日常生活支援や外出支援の要望が多いことが明らかになりました。</p> <p>そこで、22年度には、日常生活支援と外出支援をどのように事業化していくか検討を重ね、運営体制としては、町内会ごとにコーディネーターを置き、サービスのやり取りを調整する形をとることとしました。また、担い手不足の現状から、担い手（ボランティア）には、気持ち程度の謝金を支払う、有償ボランティア活動の形で運営する方針となりました。具体的には、サービスを希望する人は会員チケット券を購入し、サービスを受けた時に担い手にチケットを渡すという、会員券方式としました。</p> <p>こうした検討を経て、22年度中に日常生活支援活動に着手することができました。一方、外出支援を実施するための準備も進めました。有償で外出支援を行うためには、実施主体は法人格を有している必要がある（道路運送法）ので、22年3月に「一般社団法人 北汲沢地域総合福祉活動委員会」を設立しました。</p> <p>23年度には、5つの町内会すべてで、コーディネーター体制の確立を図るとともに、年度後半で、法律上の手続きを完了し、外出支援活動を本格的に始動する予定です。</p>
	 <p>【一般社団法人設立総会】</p>

栄区 湘南桂台地区

モデル地区 指定日	平成20年10月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 湘南桂台自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 4,200 人、約 1,500 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄区南部の丘陵地に、昭和50年代大手不動産会社が開発した戸建て分譲住宅地。 ・ 中央部分に大型スーパーと商店ビルがありますが、商店ビルのうち、約半数は空き店舗です。 ・ 交通アクセスは大船駅、港南台駅からのバスが中心です。
協力し合っている団体	湘南桂台自治会、シニアクラブ「桂山クラブ」、福祉活動団体「グループ桂台」
取組内容	<p>湘南桂台は、昭和50年代に入居が始まり、当初は成長期の子どもを持つ核家族が大部分を占めていました。その後、子ども世代が独立し、親世代が住み続ける中で、急速な少子高齢化が進んでいます。一方、地域での防災活動やまちづくり活動等、自ら課題解決に取り組む先進地区として、注目を集めている地域でもあります。</p> <p>モデル地区の地区指定を受けてからは、誰もが気軽に集える場所が欲しいという声を受け、自治会、シニアクラブ、福祉活動団体が協働で企画・運営するサロン「ぷらっとオアシス」を、毎月、桂台地域ケアプラザで開催しています。今では、回を重ねる毎に参加者も増え、高齢者を中心とした交流の輪が、地域に広がっています。(昨年10月には、林市長もサロンに参加しました。) また、近隣の店舗が撤退していく中で、地域の活性化と店舗の振興を目的に、地域の大型スーパーと自治会等が連携し、店舗フロアを活用した、店コンサート(通称:店コン)を開催しています。開始から間もなく2年を迎え、入場者の増加と共に、固定ファン、出演希望者も増えてくるなど、協働による取組が、着実に定着してきています。その他、シニアクラブを中心とした、介護予防・健康づくりに対する取組も活発に行われています。</p> <p>今後は、「誰もが、いつでも気軽に寄れる居場所」を合言葉に、常設サロンの設置を始め、高齢化が一層進む状況を視野に入れながら、これまで培ってきた地域力をどのように展開していくかが課題と考えています。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【「ミセコン」当日の店舗壁面の垂れ幕】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【「ミセコン」コンサート中♪】</p> </div> </div>

栄区 公田町団地地区

モデル地区 指定日	平成21年1月5日
地域の概要	<p>(1) 区域 公田町団地のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 2,000 人、約 1,000 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和30年代に日本住宅公団（現：UR都市機構）により開発された1,160戸の賃貸団地です。 ・交通アクセスは、団地から大船駅・本郷台駅へのバス便が中心となっています。
協力し合っている団体	公田町団地自治会、NPO法人お互いさまねっと公田町団地、桂台地域ケアプラザ、UR都市機構等
取組内容	<p>UR都市機構の公田町団地は、栄区の中心からやや南に位置する緑豊かな高台にあります。昭和39年に入居が始まりました。46年経過して、今や少子高齢化が進み、一人暮らし高齢者や高齢世帯が増え、誰にも看取られない孤立死が発生するようになりました。また、団地内のスーパーマーケットが撤退した後、コンビニエンスストアも撤退し、高齢者にとっては買い物するにも坂道を通って、遠くのスーパーまで行かねばならず、日常の買い物に困る事態になってしまいました。</p> <p>平成20年6月、団地住民を中心として「お互いさまねっと公田町団地」を発足させました。従来からの福祉活動などの取組に加え、「みんなが気持ち良く、そして長く住み続けられるまちづくり」を目指す気運の高まりの中、孤立死の防止をはじめ、見守りや買い物支援の「あおぞら市」の毎週開催などの活動を開始しました。そして、21年9月に、「特定非営利法人 お互いさまねっと公田町団地」として認証を受けました。</p> <p>法人化以前の21年2月には、UR都市再生機構神奈川地域支社と、団地内の空き店舗を活用した地域交流の一層の推進を図る拠点整備を目的に、「安心住空間創出協議会」を立ち上げました。その中で、国土交通省と厚生労働省が推進する「安心住空間創出プロジェクト」を県下で初めて実施しました。「安心住空間創出プロジェクト」は自治会や桂台地域ケアプラザ、栄区役所と協働して、高齢者の見守り機能の強化、地域住民の交流の促進など、高齢者の安心の確保と多世代交流を通じたコミュニティ形成を目指しています。拠点となる「お互いさまねっと いこい」は22年3月に開設しました。軽食をとりながらおしゃべりができるサロンや、安心センサーによる各世帯の見守りなど、地域の拠点として活動が期待されています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【多目的拠点「いこい」の外観】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【あおぞら市のスタッフのみなさん】</p> </div> </div>

栄区 飯島団地地区

モデル地区 指定日	平成22年3月29日
地域の概要	<p>(1) 区域 飯島団地自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約2,500人、約1,100世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄区の北西部に位置するUR都市機構の賃貸住宅で、昭和43年7月入居開始。現在は高齢者向け優良賃貸住宅となっています。 ・買い物等の生活圏は、バス便数の多い戸塚駅周辺となっています。
協力し合っている団体	飯島団地自治会、シニアクラブ「新和会」、飯島団地子ども会、豊田地域ケアプラザ、クロスハートヘルパーステーション、UR都市機構
取組内容	<p>飯島団地は、UR都市機構の賃貸住宅として、昭和43年入居開始から40年余を経過する中で、少子高齢化の波が押し寄せています。当地域は、自治会の加入率が高く、防災・青少年など様々な地域課題の解決に向けた取組が、自治会を中心に行われてきました。また、「七夕かざり」、夏の「団地まつり」、「秋まつり」など、地元住民を始め、近隣住民をも巻き込んだ、ふれあい交流活動も活発に行われています。</p> <p>モデル地区の地区指定を契機として、自治会、地域ケアプラザなどで構成する「飯島団地いきいきネットワーク連絡会」を今年5月に設立しました。「誰もが安心して暮らせるまち」を合言葉に、研修会の開催や、高齢者を対象とした取組をスタートしました。特に、高齢者の見守り、交流活動では、従来から自治会福祉部・保健部で行ってきた「サロンの運営」「日常の生活支援」「健康づくり」などの活動を、連絡会が吸収する形で行っています。「サロンの運営」「健康づくり」活動については、10年を超える活動歴を誇り、今では、高齢者を中心に、気軽に集える交流の場として地域に定着しています。</p> <p>今後は、「連絡会」を中心に、自治会を始め各団体の特色を生かした連携・協力体制の構築、担い手の確保や、引きこもりがちな独居高齢者、高齢夫婦等の見守り、子育て中のお母さんを対象とした、子育て支援など、きめ細かな取組が必要と考えます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【秋まつり恒例の「サンマの塩焼き」】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【敬老会の様子】</p> </div> </div>

泉区 中川地区

モデル地区 指定日	平成21年1月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 中川連合町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 24,300 人、約 8,100 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区域の大部分は市街化区域であり、一部に市街化調整区域が残る地区です。 ・幹線道路沿いを除いて、概ね第1種低層住居専用地区となっており、領家地区等では良好な住環境を維持保全するために建築協定が結ばれています。
協力し合っている団体	中川連合町内会、中川地区民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、支え合い連絡会、青少年指導員、体育指導委員、消費生活推進員、環境事業推進員、家庭防災員、消防団、子ども会（育成指導者）、防犯指導員、交通安全協会、交通安全母の会、老人クラブ、中川地区社会福祉協議会、小・中学校、PTA
取組内容	<p>自治会・町内会や地域の各種活動団体などと連携する「中川地区経営委員会」などにおいて、地域の重要課題として青少年の健全育成活動を中心に様々な活動に取り組んでいます。</p> <p>青少年の健全育成では、お祭りなどの地域イベントなどを青少年との協働事業として継続的に実施し、青少年の居場所づくりを進めています。</p> <p>こうした取組により、青少年の地域への愛着心が高まるとともに、地域住民との連帯意識も醸成され、地域の担い手活動の育成にも繋がっています。</p> <p>また、環境活動として小中学校の生徒を中心に学校の緑化活動の推進や地域の清掃活動も展開しています。</p> <p>その他、地域住民の高齢化が大きな課題となっていることなどを踏まえ、地区で初めての取組として認知症高齢者などに対するサポート体制を地域でどのように構築すべきか、その取組方策に向けた研修会の開催や災害時における要援護者対策、親子の居場所づくりなど、地域の福祉保健に関する様々な課題解決にも取り組んでいます。</p> <div data-bbox="927 1003 1423 1370" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1059 1379 1257 1406">【地域の見守り活動】</p>

モデル地区 指定日	平成22年3月10日
地域の概要	<p>(1) 区域 緑園連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約 15,100 人、約 5,300 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 泉区の東北に位置し、約20年前に開発された相鉄線緑園都市駅をほぼ中央に置く比較的閑静な住宅街です。 ・ 緑園地区活性化委員会のほか、緑園都市コミュニティ協会（RCA）や地区連合自治会など様々な団体により様々な活動が行われている地域です。
協力し合っている団体	緑園連合自治会、緑園地区民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員、保健活動推進員、消費生活推進員、環境事業推進員、家庭防災員、老人クラブ、交通安全協会、交通安全母の会、女性団体連絡協議会、緑園地区社会福祉協議会、商店会、NPO、地域交流センター
取組内容	<p>緑園連合自治会、地域の各種活動団体が連携した「緑園地区活性化委員会」では、自治会町内会や複数の団体の関係者が参画して活発な意見交換などを行っています。</p> <p>昨年度は地域の生活課題の抽出、整理を進めながら、それぞれの課題の解決の方向性を明確化し、今年度から地域課題の解決に向けて地域が一体となった地域活動を展開することを基本的な考え方として地域活動を実践しています。</p> <p>緑園地区には、専門的・技術的な能力を持つ住民が多数居住している地域特性を踏まえて、それぞれの地域が自己の能力を活かしながら、地域の支え合いを展開する地域通貨（タスカル券）の仕組みを試行的に実施し、地域のコミュニティ醸成を図っています。</p> <p>また、年齢や世代を超えて、誰もが、気軽に集い、話すことができる大人の居場所づくりや井戸端会議の実施など、地域の世代を超えた情報交換の場の設置を進めています。</p> <p>災害時要援護者対策などにも取り組み、地域の総合的な支え合いの仕組みづくりを進めています。</p> <p>この他、緑園地区を統一感のある緑の園として継承するクリーン&グリーンキーパーや遊歩道の維持管理の分野にも力を入れるなど、緑園地区の多様化する地域の課題解決を進めています。</p>



【緑園地区活性化委員会】

モデル地区 指定日	平成22年3月10日
地域の概要	<p>(1) 区域 新橋連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約8,500人、約3,000世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相鉄線弥生台駅と緑園都市駅の間に位置する閑静な住宅街です。 ・地区内には古くからの神社・仏閣が立ち並び、歴史を感じることができる町並みです。一方、緑に覆われた地域も多く、自然環境にも恵まれています。
協力している団体	新橋連合自治会、自治会町内会、新橋地区民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員、消防団、交通安全母の会、保護司会、老人会、こども会、新橋地区社会福祉協議会
取組内容	<p>相鉄線弥生台駅北側に位置する新橋地区は、中央を阿久和川が流れ、その流域に森や畑と住宅地が混在しています。旧家も多く、自然と調和した人々の暮らしを垣間見ることができます。</p> <p>「新橋住みよい街づくり委員会」では、地区連合自治会とともに、脱地球温暖化対策に関する勉強会の開催や、個人や家庭で実践できる脱地球温暖化対策の普及活動、まち歩きワークショップなどにより、公園、緑地、公的施設などの親子や高齢者などの地域住民が交流できる場を地図に落とし込み、紹介する“つどいの場マップ”の作成活動、及び更新作業を行っています。また、手上げ方式により、災害時などに支援を必要とする人と、安否確認に駆けつける支援者を募り、いざという時に備える隣近所の見守り体制を強化する「災害時要援護者対策」、地域と接する機会が少ないひとり暮らしの高齢者などに、地域にふれあう機会を提供する「ひとり暮らし食事会」などに取り組んでいます。</p> <p>さらに、近隣の人達が出会い、交流を深めることが地域の活性化につながることを意識し、「合って」をもじった「アッテ祭り」も毎年開催しています。</p>
	 <p>【自然あふれる新橋地区】</p>

モデル地区 指定日	平成22年3月10日
地域の概要	<p>(1) 区域 和泉北部連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約9,400人、約3,200世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね相鉄線いずみ野駅の北側を区域とする、瀬谷区と隣接する地域です。 ・市街化区域はマンションと戸建て住宅が混在する駅周辺と、戸建て住宅が建ち並び日向山地区で、それ以外のほとんどは市街化調整区域となっています。
協力し合っている団体	和泉北部連合自治会、連合自治会女性部、自治会町内会、和泉北部地区民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員、和泉北部地区社会福祉協議会
取組内容	<p>和泉北部地区経営委員会や和泉北部連合自治会、地区社協、小・中学校、各種団体等が連携して、地域課題の解決策の検討や地域活動に取り組んでいます。</p> <p>特に、地域のふれあいサロンの運営や防犯などの地域活動が行われている一方、和泉北部地区経営委員会が主体となって、災害時における要援護者に対する地域の支え合い体制にも取り組み、災害時要援護者と地域の支援者を募り、名簿の整理や組み合わせなどの検討・整理を行っています。</p> <p>【地区連合自治会大運動会】</p>  <p>今後は、日常的な地域の見守り体制の整備をどのように進めるべきかの検討に併せて、地域の交流活動拠点の新設も目指して、地域の情報収集などの活動を進めています。情報収集などを行いながら地域一体となって地域活動を展開していきます。</p>

モデル地区 指定日	平成22年3月10日
地域の概要	<p>(1) 区域 和泉中央連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約 23,000 人、約 8,300 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和泉町のほぼ中央に存在する区域です。 ・相鉄いずみ中央駅や区庁舎などが含まれており、和泉川を利用したイベントなどで地域住民のコミュニティづくりに取り組んでいる地域です。
協力し合っている団体	和泉中央連合自治会、自治会町内会、和泉中央地区民生委員児童委員協議会、和泉中央地区社会福祉協議会
取組内容	<p>和泉中央地区は、和泉町の中央に位置し、相鉄いずみ中央駅や泉区総合庁舎も立地し、最近では相鉄いずみ中央駅前周辺に、マンションの建設などが増加していることなどを踏まえ、地域の連帯意識やふるさと意識の醸成を目指して、和泉中央地区経営委員会が主催し多彩なイベントを企画・実施しています。</p> <p>当地区では、地域の人間関係の繋がりの希薄化が課題となっており、地域住民による作品の展示や演芸会を通じて人と人とのふれあいや絆を深めることを目的とする「和泉中央地区ふるさとまつり」などを開催しています。</p> <p>その他にも地域住民の関係づくりのきっかけとなるよう、ごみ袋いっぱい活動やメダカの放流などを実施する和泉川クリーンアップや災害時における要援護者対策などの地域支え合い事業なども行っています。</p> <p>また、地区連合自治会を中心として自治会・地区社協の連携によって地域の見守りネットワーク構築支援事業を活用して常設のサロンを開設し、地域の高齢者がふれあう場づくりも進めています。</p> <p>こうしたふるさとまつりなどの実施により、地区の民生委員児童委員協議会と社会福祉協議会の連携が深まり、地域に根差したイベントの企画・実施が展開できるようになりました。</p>
	 <p>【第1回和泉中央地区ふるさとまつり】</p>

泉区 下和泉地区

モデル地区 指定日	平成22年3月10日
地域の概要	<p>(1) 区域 下和泉連合町内会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約 6,800 人、約 2,400 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内で米軍深谷通信隊に一番多く接する地域です。 ・昭和40年代を中心に開発された地域もあるため、狭い路地が多く、幹線道路の整備を待ち望む地区であることから交通問題などに対する関心が非常に高い地域です。
協力し合っ ている団体	下和泉連合町内会、自治会町内会、下和泉地区民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員、保健活動推進員、消費生活推進員、環境活動推進員、家庭防災員、下和泉地区社会福祉協議会、小・中学校、PTA
取組内容	<p>自治会町内会、地域の各種活動団体が連携した「下和泉地区経営委員会」では、地域の子供たちとポスターやパンフレットを作成し、河川等への掲示などの環境整備や地域で取り組む脱地球温暖化対策（地域緑化）、地域の道路事情を踏まえた地域総ぐるみで取り組む交通安全対策に重点的に取り組んでいます。</p> <p>このほか、高齢者などへの地域支援策として地域のボランティア団体による高齢者世帯の庭木の手入れや地域の樹林を活用した地域住民が集える施設の設置・運営を行う泉文化の森の振興事業団体など、様々な活動団体との交流促進を図っています。</p> <p>現在、災害時要援護者への対応方法などについても、関係団体との連携・話し合いを進め、具体的な取組を検討しています。</p> <p>また、各自治会町内会などで、地域における交通安全対策などについて、日常生活で戸惑っていること、困っていることなどの意見や要望を地区経営委員会の会議に提示し、地域課題の抽出、整理を進めながら地域の課題解決の取組を展開しています。</p>
	 <p>【庭の手入れの会による地域支援活動】</p>

泉区 富士見が丘地区

モデル地区 指定日	平成21年1月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 富士見が丘連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約9,100人、約3,100世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下和泉住宅が第1種低層住居専用地域である他は全て市街化調整区域です。 ・2河川が貫流し、緑豊かな地域である反面、交通不便、不法投棄などが地域の課題となっています。
協力し合っている団体	富士見が丘連合自治会、富士見が丘地区民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、青少年指導員、体育指導委員、消費生活推進員、ハマロード活動代表、富士見が丘地区社会福祉協議会
取組内容	<p>地区連合自治会や地区社協、福祉の会などの連携により、高齢者のサロンが地域に5ヶ所、子育てサロン2ヶ所が設置され、現在、地域の皆さんに利用されており、地域の支え合いの場所を運営しています。</p> <p>また、学校・地域による安全対策会議や町内会、青少年指導員、学校、PTAなどの諸団体との連携による登下校時の子供の見守りや防犯・安全対策が実施されています。</p> <p>特に、活動が活発化しているのが自治会町内会やバス事業者との協働による朝・夕の通勤・通学時間帯のコミュニティバスの自主運行です。</p> <p>その他、地区連合自治会、環境事業推進員会、学校、PTA等の諸団体による河川環境クリーンアップ活動が定期的に行われています。</p> <p>福祉・保健分野でも、高齢者が生きがいをもてるまちづくりを目指して、居場所やサロンづくり、介護予防講習会、世代を超えた地域活動の参加を進めるとともに、障がい者への理解と交流の促進を図るため、施設利用者と地域住民がお互いにイベントや行事に参加し、活動の機会・提供づくりの取組を進めています。</p> <p>また、身近な場所での健康づくりとして、気軽にできるウォーキングなどのプログラムを増やし、地域住民への参加の呼びかけにも力を入れています。</p> <p>地域における子育て応援策としても、世代間交流の居場所づくりや子育て支援者向けの研修の企画・実施、災害時要援護者支援体制づくりを目標として、災害時要援護者の把握、地域支援者の登録及び役割を明確にし、登録者の募集を進めています。</p> <p>その他、地域活動団体の紹介パンフレットの掲載内容の充実をはじめ、地域活動団体への取材及びホームページ作成の検討、富士見が丘地区まつりでのパネル展示と団体交流なども進めています。</p>
	 <p>【いずみ桜広場オープン式典】</p>

モデル地区 指定日	平成21年1月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 上飯田連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 12,100 人、約 4,200 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴 ・町の北側を中心に大部分が市街化調整区域であり、豊かな自然や歴史的建造物がある閑静な住宅地です。</p>
協力し合っ ている団体	上飯田連合自治会、上飯田地区民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、青少年指導員、体育指導委員、消費生活推進員、環境事業推進員、消防団、子ども会（育成指導者）、交通安全協会、上飯田地区社会福祉協議会、PTA、NPO飯田八日会（給食サービス）、NPOわいわい仲間（子供の居場所の運営）
取組内容	<p>地区連合自治会や地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員、その他の地域の各種活動団体が連携した「上飯田地区住み良いまちづくり委員会」において青少年の健全育成や災害時要援護者などの地域支え合い体制の整備に取り組んでいます。</p> <p>特に力を入れているのが青少年健全育成事業で、次世代を担うのは青少年の健全育成を進めることが必要不可欠であることから、地域総ぐるみで夜間のパトロールをはじめ、夏休み期間中の夜間外出時の指導及び声かけなどの見守りを行うことで、青少年の非行防止と犯罪の防止活動を実施しています。</p> <p>教育環境活動では、地域、中学校の教職員、生徒及びPTAが上飯田中学校周辺の草取りの活動や不法投棄のゴミ処理などを体験する地域の教育活動を展開しています。</p> <div data-bbox="395 1310 780 1599" data-label="Image"> </div> <p>【夏の合同防犯パトロール】</p> <p>また、コミュニティリーダーの育成策として、ボランティアとして参加した学生をコミュニティリーダーとして認定するなど、地域をあげて地域イベント・行事などの地域活動の担い手の養成を図っています。</p> <p>更に、地域と小中学生によるスポーツ交流大会を企画・実施し、スポーツを通じて、相互交流を図りながら、青少年と地域との対話に重点を置いた取組を進めるとともに、地域と小中学生による意見交換会（ワークショップ形式）を開催し、上飯田地区をどのようなまちにしたいのか、地球環境の保全に向けて自分たちは何ができるのかなどについて意見交換を行う機会と場を設ける取組を続けています。</p>

泉区 上飯田団地地区

モデル地区 指定日	平成21年1月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 上飯田団地連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約2,100人、約1,100世帯（H17国勢調査）</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営上飯田団地の27棟で自治会連合を構成しています。 ・花壇づくりなどの緑化活動を中心に活動が盛んですが、地域住民の高齢化による担い手不足などの課題が多くある地域です。
協力し合っている団体	上飯田団地連合自治会、上飯田団地地区民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、体育指導委員、青少年指導員、消費生活推進員、環境事業推進員、家庭防災員、老人クラブ、防犯指導員、交通安全協会
取組内容	<p>自治会町内会、地域の各種活動団体が連携した「上飯田団地地区経営委員会」では、地域健康維持増進運動や団地内の環境美化活動を通じて、高齢者に対する支え合いの取組を行っています。</p> <p>第2期地域福祉保健計画では、地域によるひとり暮らし高齢者の見守り体制の推進や地域健康維持増進運動や団地内の環境美化活動にも力を入れています。</p> <p>平成22年度においては、福祉保健センター内に設置したひとり暮らし高齢者などの地域見守りモデル事業プロジェクトチームと地域が連携して、第2期地域福祉保健計画地区計画の推進を図っています。</p> <p>また、地域が中心となって地域の活動ができるよう、訪問調査などの生活実態から課題を抽出・整理し、地域住民にその課題などを伝えながら、どのように解決ができるのか、区と地域で協働事業を実施しています。</p>
	 <p>【健康づくり活動】</p>

泉区 いちょう団地地区

モデル地区 指定日	平成21年1月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 いちょう団地連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約5,000人、約2,100世帯 (H17国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県営住宅48棟で自治会連合を構成しています。区境、市境に立地し、最寄りの駅までは公共交通機関であるバスに頼らざるを得ない地区です。 ・外国籍の居住者も多数入居しており、コミュニケーション不足などで地域活動が困難な一面もあり、多文化共生の地域活動に取り組んでいます。
協力し合っている団体	いちょう団地連合自治会、いちょう団地地区民生委員児童委員協議会、いちょう団地地区社会福祉協議会、保健活動推進委員会、青少年指導員、体育指導委員、環境事業推進員、子ども会（育成指導者）、交通安全協会、交通安全母の会
取組内容	<p>ボランティア団体、学校、地区社協等が連携して子育てサロンを開催し、英語やベトナム語などの多国語による日本語教室の開催や、多文化交流会活動を実施しています。地区連合自治会や地区社協、地域ボランティアなどでは連携を強化し、定期的にひとり暮らし高齢者に対する食事会を実施しています。</p> <p>今後は対象者を拡大するとともに、環境事業推進協議会や地区連合自治会と協働しながら、花壇の整備や樹木の剪定、周辺道路清掃等の地区内の環境美化の活動を展開するなど、早朝・夜間における防犯パトロールなども含めた子どもの非行防止活動を進めていきます。</p> <p>地域の会合及び地区社会福祉協議会や地区経営委員会の場では、地域住民の参加による話し合いや多文化共生事業などの取組を活性化させながら、学校、保育園や周辺施設等との協働事業として、世代交流の強化にポイントを置きながら、各機関との役割を明確にすることとしています。</p> <p>さらに、ふれあい福祉まつりなどのイベントを通じて、地域住民等とのコミュニケーションを充実し、これまで以上に関係者間の協力・連携体制を強化することとしています。</p>
	 <p>【いちょう団地／食事会の開催】</p>

モデル地区 指定日	平成21年1月30日
地域の概要	<p>(1) 区域 中田連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口 約 30,700 人、約 11,600 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立場駅や中田駅周辺は大規模小売店や4つの商店会が立地する区内では少ない近隣商業地を擁していますが、区域の一部に調整区域が残っています。 ・ 区内最大の連合であり、連合が主催するマラソン大会や祭りなど、住民の交流に関するイベントが盛んな地域です。
協力し合っている団体	中田連合自治会、中田地区民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、青少年指導員、体育指導委員、消費生活推進員、家庭防災員、環境事業推進員、交通安全協会、小・中学校、商店街、NPO和の会（地区センター運営団体）、少年少女発明クラブ、ボーイスカウト
取組内容	<p>自治会町内会、地区社協、地区民児協、支え合い連絡会等が連携して、ひとり暮らし高齢者食事会、訪問・見守り、ゴミ出し支援などを行っています。また、健康づくり教室などでは周辺自治会からの参加を促す、区域を越えた柔軟な取組が行われています。当地区のエリアは区内で最大であることなどから、地域団体との連携の強化を目指して、障害者の地域作業所、地区連合構成各団体、青少年指導員会、体育指導委員会、学校、PTAが協働しながら、地域防災訓練等の実践的な取組を実施しています。</p> <p>また、宮城県宮城中田町との地域間交流を長期間にわたって実施しています。</p> <p>今後は、災害時における要援護者支援システムの構築や子育て支援連絡会の開催、障害者施設と地域の交流促進をはじめ、地区で実施している福祉保健活動、地区経営委員会などが主催する地域イベントなどを、地域へ情報提供・発信する『かわら版』の発行などの企画を検討しています。</p>
	 <p>【地球愛いずみ音楽祭 in 中田】</p>

モデル地区 指定日	平成22年3月10日
地域の概要	<p>(1) 区域 しらゆり連合自治会のエリア</p> <p>(2) 人口・世帯数等 人口約 6,000 人、約 2,200 世帯 (H17 国勢調査)</p> <p>(3) 町の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全域が第1種低層住居専用地域であり、居住者の変動が少なく、区内公営集合住宅地域を除けば、区内で最も高齢化率の高い地域です。 ・公共交通機関は市営地下鉄であり、生活圏は戸塚区を向く傾向があります。
協力し合っている団体	しらゆり連合自治会、自治会町内会、しらゆり地区民生委員児童委員協議会、体育指導委員、青少年指導員、保健活動推進員、消費生活推進員、家庭防災員、老人会、子ども会、白百合会、しらゆり地区社会福祉協議会
取組内容	<p>ひとり暮らし高齢者の見守りや地域防犯活動、高齢者給食会など、地区連合自治会や学校、地区社協等が連携しながら高齢者に対する日常行動の支援、養育者への子育て支援などに取り組んでいます。</p> <p>特に災害時における要援護者の地域による支え合い体制の整備を進めており、災害時要援護者や地域支援者を募集し、名簿の整理や組み合わせ方法などの取組を地域で継続して実施しています。</p> <p>現在、高齢者サロン・子育てサロンの交流を進め、異世代間による交流の促進を図るとともに、子育てサロンなどの活動に「食育の教育」を含めた活動に取り組み、ひとり暮らし高齢者を対象とした「しらゆり食事会」なども定期的実施しています。</p> <p>また、地域の担い手づくりにつながる活動をどのように企画し実施すべきかなどの検討を進めています。</p>
	 <p>【しらゆり食事会】</p>

平成23年3月31日

「身近な地域・元気づくりモデル事業 モデル地区活動事例集」

横浜市市民局地域活動推進課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

電話 045-671-3625 / Fax 045-664-0734